

## 第5学年 社会科学習指導案

### 1 単元名 「日本の工業には、どんな特色があるの」 (日本文教出版)

#### 2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の内容(3)を受け、我が国の工業生産について、「ア 様々な工業製品が国民生活を支えていること」「イ 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など」「ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」を調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えさせることをねらう。

本小単元では、ア、ウに重点を置き、我が国の工業生産が国民の生活の向上や産業の発展に果たしている役割について考えさせることをねらう。我が国の各種の工業生産やその特色について追究させる際、工業生産の現状から自分たちの住んでいる有田町と対比させて考えさせる活動を取り入れる。また、工業生産が抱える社会的な問題として「高い技術力に裏付けられた製品の質と価格の安い製品を欲しがらる消費者」を取り上げ、有田町の陶磁器(有田焼)製造業(以下、有田焼生産)を具体的な工業生産の事例として「意思決定を取り入れた討論型の学習」を行うことで、これからの日本の工業生産について考えさせる。これにより、有田焼生産が基幹産業である有田町に住む児童が、日本の工業生産を身近な事象として捉え、我が国の工業生産が国民の生活の向上や産業の発展に果たしている役割を考えようとする意欲を高めることが期待できるとともに、日本の工業生産について深く考えることができるようになる。

- 本学級の児童は、意識調査では、約6割の児童が、社会科の学習を好きであると答えている。理由として、世界や日本の様子、産業などについて知ることができることや調べることを挙げている。一方で、あまり好きではないと答えている理由には、資料を読んで答えることが苦手であること、考えることが難しいことなど社会的な事象を捉え、考えることの困難さを多く挙げている。また、自分の考えを発言することに関しては、約7割の児童が苦手であると答えている。理由として、恥ずかしい、自分が言いたいことを伝えにくい、などを挙げている。学習内容について、「有田の工業といえば何を思い浮かべるか」という質問に対して「焼き物」という答えは2割に満たなかった。これは、前単元で自動車工業を学習していることから、工業生産に対して「大きな機械を使う」というイメージをもっているためであると考えられる。
- 指導に当たっては、「学習問題をつかむ」段階では、まず、身の回りにあるほとんどの物が工業製品であることに気付かせる。次に、日本の製造業の工場数や事業所数が減少していることを提示することで、日本の工業生産に対する関心を高めさせたい。その後、工業生産について調べたいことを考えさせ、学習問題Ⅰ「日本の工業には、どんな特色があるのだろうか」を設定する。「調べる」段階では、資料を基に日本の工業生産の盛んな地域や特色を小集団で読み取らせていく。その際、有田町の工業生産についても並行して読み取らせていくことで、学習問題Ⅱへ児童の課題意識を導いていく。また、中小工場の社会的役割を考えさせることで、有田焼生産においても優れた技術が基になっており、有田町の産業に欠かせないものであることを認識させる。「考え・まとめる」段階では、考えることが難しいという児童に配慮し、世界や日本の工業生産について考えさせるための具体的な事例として身近な有田町の有田焼生産を取り上げて学習を進めていく。有田町の陶磁器販売額の減少を知らせることで、有田焼生産への関心を高め、学習問題Ⅱ「これからの有田焼は、大量生産し安くすべきか」に導いていく。最後に、日本の工業生産の特色を学習したことを生かし、伝統産業である有田焼生産にどのような価値を求めるのかを、学習問題Ⅱの議論を通じて考えさせる。これにより、日本の工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることについての考えを深めさせたい。また、地域の一員として地域の課題を解決していこうとする意識を育てたい。

### 3 単元の目標

我が国の工業の特色について、身の回りの工業製品に関心を持ち、我が国で盛んな工業の種類、主な輸出入品、工業生産の盛んな地域などの資料を活用して調べ、日本や有田町の工業生産の現状や工業生産が抱えている問題点などが分かり、日本の工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて考えるようにする。

これまでに学習したことを踏まえた上で、これからの有田焼生産の在り方について考え、資料や論題を基にした議論の内容を根拠にして、自分の考えを適切に表現することができるようにする。

### 4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○我が国の工業生産について関心を持ち、その特色について様々な観点から意欲的に調べている。 ○我が国の工業生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることやこれからの有田焼生産の発展を考えようとしている。	○我が国の工業生産の特色について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ○我が国の工業生産の特色や現状を国民生活と関連付けて、国民生活を支えている役割や有田焼生産の発展を考え適切に表現している。	○地図、統計、写真などの資料を活用して、日本や有田町の工業生産の現状や問題点について必要な情報を集め、読み取っている。	○我が国の工業生産の特色や現状を理解している。 ○我が国の各種の工業生産や様々な工業製品が国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

### 5 単元計画（全6時間 本時5/6）

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	【主な評価】(・)	時配
学習問題を つかむ	○身の回りの工業製品は、6つの種類に分けられることを知る。 ○日本の製造業の工場数や事業所数が減少していることを基に、日本の工業生産について、調べていきたいことを考える。	○工業製品が6つの種類(金属・機械・化学・食料品・繊維・その他)に分けられることを知らせ、有田町の有田焼生産はどの工業に分けられるのかを考えさせる。 ○日本の製造業の工場数や事業所数が減少していることを提示し、日本の工業生産に対する関心をもたさせる。	・様々な工業製品が国民生活を支えていることを理解している。 【知】 ・工業生産について調べていきたいことを進んで考えようとしている。 【関】	1
<b>日本の工業には、どんな特色があるのだろう。《学習問題I》</b>				
	○統計資料を読み取って、日本で特に盛んな工業生産や日本の主な輸出入品を調べる。	○円グラフや帯グラフの読み方を説明した後に、調べさせる。 ○それぞれの工業生産の割合だけでなく、従業員数や工場数の減少などに	・統計資料を活用して、日本で特に盛んな工業生産や日本の主な輸出入品	1

調 べ る		も目を向けさせる。 ○有田町の工業生産額や従業員数の半数程度は有田焼生産に関連があることを読み取らせる。	を読み取っている。 【技】	
	○資料を基に、工業生産の盛んな地域がどのような場所に多いかについて考える。	○工業生産額が多い地域やその地域での盛んな工業生産を調べさせる。 ○複数の資料を基に、工業生産が盛んになる条件を考えさせる。	・工業生産の盛んな地域はどのような場所に多いかを考え適切に表現している。【思】	1
考 え ・ ま と め る	○優れた技術をもつ中小工場の事例を基に、中小工場の社会的役割を考えるとともに、中小工場の問題点を調べる。 ○日本のこれからの工業生産について考える。 ○学習問題Ⅰをまとめる。	○中小工場の数などに関する資料や優れた技術をもつ中小工場の事例を調べるを通して、中小工場が社会に必要であることを考えさせる。 ○「環境」に配慮した工業生産が求められてきていることに気付かせる。 ○学習問題Ⅰについて、盛んな工業生産など学習したことを中心にまとめさせる。	・中小工場の社会的役割について理解している。【知】	1
	○有田町の工業生産の現状について知り、これからの有田焼生産の在り方について考える。 ○学習問題Ⅱを設定し、意思決定1を行う。	○有田町の有田焼生産では、売り上げ、従業員数ともに減少している現状を知らせ、これからの有田焼生産の在り方について考えさせる。 ○児童の考えを基に、工業製品の質と価格の安さから社会的な問題に気付かせ、学習問題Ⅱへと導く。	・これまでに学習した日本や有田町の工業生産の現状を踏まえた上で、これからの有田焼生産の在り方について考え、適切に表現している。【思】	1 本 時 (5/6)
	論題 これからの有田焼は、大量生産し、値段を安くすべきか。《学習問題Ⅱ》			
	○これからの有田焼生産の在り方について討論を行い、討論内容を基に自分の考えをまとめる。(意思決定2)	○学習問題Ⅱについて、賛否両方の立場で意見を交流させることで、自分の考えを見直させ、これからの有田焼生産を発展させていく方法と自分にできることをまとめさせる。	・これからの有田焼生産の在り方について、友達の見見も取り入れながら、考えをまとめ、自らが住む有田町の伝統工業をよりよくしていこうとしている。【関】	1

## 6 本時の目標

これまでに学習した日本や有田町の工業生産の現状を踏まえた上で、これからの有田焼生産の在り方について考え、自分の考えを適切に表現することができる。

## 7 展開(全8時間 本時5/8)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
<p>1 日本の工業生産の特色を振り返り、消費者の立場から工業製品を選ぶ観点について考える。</p> <p>2 学習のめあてをもつ。</p>	<p>○前時までの学習を振り返り、日本の工業生産の特色を確認する。</p> <p>○消費者の立場から数種類の工業製品をどのような観点で選ぶかを考えさせることで、工業製品を売るには消費者の視点から考える必要があり、人によって価値観が違うことに気付かせる。</p> <p>○有田焼の印象(美しい・白い・値段が高いなど)を押さえておくことで、消費者(自分たち)の購買意識と違いがあることに気付かせる。</p> <p>○有田町の陶磁器販売額が減少している資料を読ませ、これからの有田焼生産の在り方を考えようという意欲をもたせる。</p>
<p><b>めあて これからの有田焼の生産について考えよう。</b></p>	
<p>3 有田町の陶磁器販売額が減少した理由を考える。</p> <p>4 どのような有田焼生産を目指したらよいかを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>社会的な問題</b> (研究や論争の材料となる事件) 「有田町の主産業である陶磁器産業(有田焼生産)の販売額が減少していること」</p> </div>	<p>○「値段が高い」という考えはすぐに出てくることが予想されるが、「たくさん食器を買うことがない」「安い輸入品が増えてきた」などの考えが出ない場合、考えの基となる資料を提示する。</p> <p>○有田町の陶磁器販売額が減少した理由を基に、生産の工夫に目を向けさせ、どのような有田焼生産を目指していけばよいかを考えさせる。</p> <p>○「PRする」「自分たちが買う」などの具体的方策ではなく、どのような有田焼を残していきたいかを考えさせる。</p> <p>○値段をそのまま付加価値を付ける(工業製品の質を維持する)か、大量生産をして値段を下げる(価格を安くする)かという2つの意見に整理し、学習問題Ⅱへと導く。</p>
<p><b>論題 これからの有田焼は、大量生産し、ねだんを安くすべきか。《学習問題Ⅱ》</b></p>	
<p>5 学習問題Ⅱについての意思決定を行い、ワークシートに記入する。 (意思決定1)</p> <p>6 学習問題Ⅱについて、次時に討論を行うことを課題としてもつ。</p>	<p>○これまでに学習した日本や有田町の工業生産の現状を踏まえた上で、これからの有田焼生産の在り方について書かせる。 【評価】</p> <p>○学習問題Ⅱについての意思決定が、賛否両方の意見があることに気付かせることで、意見を交流させる意欲付けとする。</p>

## 8 本時の評価

本時の 評価規準	これまでに学習した日本や有田町の工業生産の現状を踏まえた上で、これからの有田焼生産の在り方について考え、自分の考えを適切に表現することができているか。 (社会的な思考・判断・表現)		
判定基準 (判断のめやす)	「十分満足できる」状況(A)	「おおむね満足できる」状況(B)	「努力を要する」状況(C)
	学習問題Ⅱについて、これまでの学習内容と自分なりの理由付けから意思決定し、記述している。	学習問題Ⅱについて、これまでの学習内容、または自分なりの理由付けから意思決定し、記述している。	(B)に達していない記述
→(B)、(C)と判断した生徒への支援策		→どうしてそう考えたのかを詳しく書くように指示する。	→前時までのワークシートや本時の資料を基に、意思決定させる。
評価方法	ワークシートの記述		